

令和 4 年 6 月 30 日現在

機関番号：82125

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K04553

研究課題名(和文) 教職スタンダードに係わる国際動向調査から教師教育における普遍的知見を探究する研究

研究課題名(英文) Comparative Inquiry of Teacher Accreditation Requirements

研究代表者

百合田 真樹人 (Yurita, Makito)

独立行政法人教職員支援機構(東京事務所調査企画課)・東京事務所・上席フェロー

研究者番号：40467717

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：教師の質をめぐるアカウンタビリティ政策を導入した各国地域で観察される(1)教師の専門職アイデンティティの希薄化、(2)教職の魅力低下、(3)教員離職率の増加の課題に注目し、教師の職業アイデンティティとその形成に係る先行研究と、諸外国での実態調査から、教師の専門性及び資質能力を要素分解的に定義・測定する行動主義的質保証アプローチの有効性が限定的であること、専門職アイデンティティを無効化すること、教職の魅力低下と脱専門職化に直結することを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

教師に求められる職能を資質能力に要素分解し、これをスタンダードや指標として用いる制度的質保証メカニズムを前提にする教員政策の課題と理論的境界を明らかにした。これに合わせて主に欧州諸国で再検討が進む教師の継続的な職能開発の制度的質保証をめぐる教員政策の現状を調査し、専門職性に伴う学びと教員を組織として捉え包摂的な機会保障を図るウェールズ(英)で進む教師教育政策の改革について整理した。

研究成果の概要(英文)：The study focuses on the issues of (1) the dilution of teachers' professional identity, (2) the decline in the attractiveness of the teaching profession and (3) the increase in teacher turnover observed in the systems that have introduced accountability policies for teacher quality. It was examined the effectiveness and limitations of the behaviourist quality assurance approach in defining and measuring teachers' professional competencies. Based on previous studies on teachers' professional identity and its formation, as well as surveys of the actual situation in other countries, it was found that the behaviourist quality assurance approach, which defines and measures teachers' professional and qualitative competences in an elemental and decompositional manner, is of limited effectiveness, invalidates professional identity and is directly linked to the decline in the attractiveness of the teaching profession and the de-professionalisation of the profession.

研究分野：教師教育

キーワード：教師教育 教員政策

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

教師教育の高度化・専門化をめぐる教員政策と研究の動向は、養成前・養成段階・採用・初期研修・継続的研修を踏まえ、教職キャリア全体を体系的に捉える方向で展開している。しかしながら以下に示す2点の課題は、わが国の教師教育研究が「教師の専門性」をめぐる普遍的知見の追究を難しくしている。

第一の課題は、教員の養成・採用・研修を接続する実証研究に支えられた共通基盤(共通言語)の不在にある。大学と教育委員会との連携/協働が推進されているが、その多くは人的交流や知見の共有にとどまる。組織障壁を越えた有機的な連携/協働を具体化するために、実証研究が支えるエビデンスを共通言語として、教師教育の普遍的知見を追究する取り組みが不足している。

第二の課題は、教師教育研究における普遍的知見を探究する実証研究の不足である。教育研究者の多くが大学に籍を置くわが国では、養成段階の研究に偏る傾向があり、このため、教職キャリア全体をとらえた教師教育課題を追究する実証研究が相対的に少ない。さらに、研究の対象・関心の多くがドメスティックに閉じており、教師教育政策・研究を国際的文脈に位置付け、普遍的な知見を探究することについても積極的とは言えない。

2. 研究の目的

本研究は、教員の養成/採用/研修を一体化する制度改革や「教員育成指標」の策定において参照軸となる「教師の専門性」とその検討に必要な実証的知見の構築を図る。教職スタンダードに係わる教師教育改革の政策的・学術的な国際動向から、「教師の専門性」を定義・測定する共通指標を探索するとともに、わが国の教員集団の意識の実態と対比することで、教師教育の研究と政策判断に資する普遍的知見となり得る要素を探る。

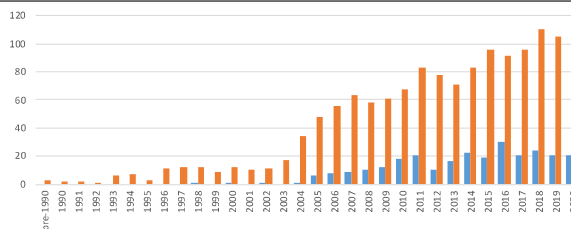
3. 研究の方法

国際比較研究の方法を採用する。特に「教職スタンダード」に係わる政策的・学術的動向を対象に、スタンダードの構成要素と測定方法、さらに関連した実証研究事例を収集し検討する。そのうえで、わが国の教員政策における教師の職能開発と質保証のレトリックを分析し、教師の職能向上に係わる主体の特定と主体的行動(主体性)の形成・維持に貢献する因子を特定する。

4. 研究成果

教師の資質能力の形成・刷新・強化に向けたアプローチをめぐる進行中のパラダイムシフト

国連のSDGs(UN, 2015)は教師の継続的な学びの機会保証を要件に含むほか、各国の教育政策文書も加速度的に変化する予測困難な現代社会(VUCA)に应答する教師の知識や技能の継続的な刷新の必要性を強調する(OECD, 2005)。教職生活を通して継続的成長を図る教師教育政策の見直しは、グローバル化に伴う社会の急速な変化をうけて各国地域が高い優先順位にあげている(EC, 2015; Roberts-Hull, et al., 2015; OECD, 2019)。



ERIC登録査読論文件数の推移

Educational Resources Information Center (ERIC)から百合田作成。
2020年12月17日時点の計数

- CPD … 教師を対象とした継続的研修・資質能力開発
- CPL … 教師の継続的な専門職性に伴う学び

要点

- 90年代後半に専門職性に「継続性」が求められ始めた(問いの興り)
- CPDでは95%、CPLでは99%の論文が2000年以降の発表(問いの展開)
- CPLは近年になって焦点化(CPD/CPL=2000年に12倍、2020年には3.8倍に縮小)~(問いの変化)

3つのステージでそれぞれが克服を図る課題は何か?

- 「継続的な～」以前の研修や学び
- 「継続的な専門職性の開発(CPD)」
- 「継続的な専門職性に伴う学び(CPL)」

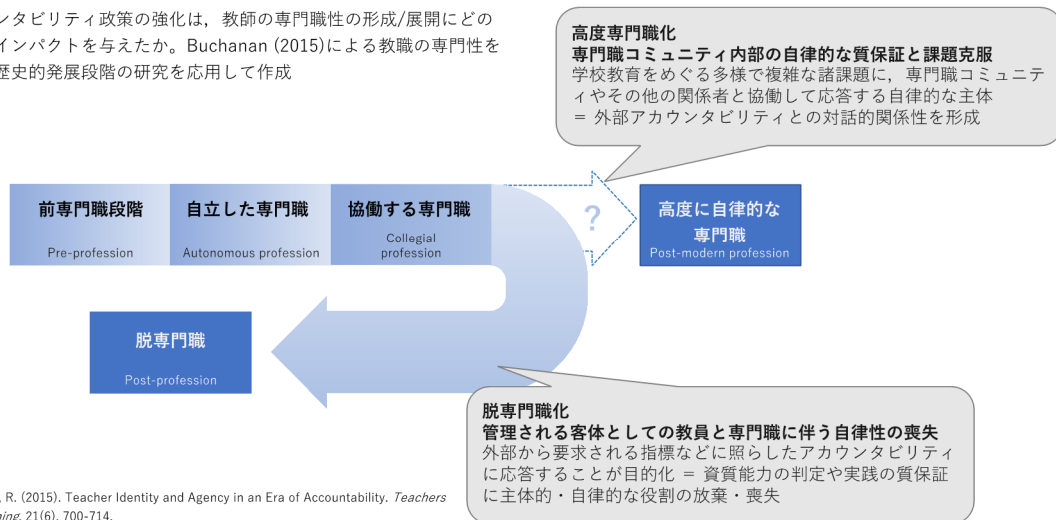
- CPD → CPLへの契機のパラダイムシフトは何を意味するのか
- CPLはCPDのどのような課題・問題に应答するのか
- CPLの実効性を確保する施策・支援はどのようなものか
- このパラダイムシフトは、教職の魅力化や教師の量的確保と質的保証にどう影響するのか

教師の資質能力形成と質保証を目的とした教師の継続的な学びとその制度に介入するアカウントビリティ政策を導入した各国地域で観察される(1)教師の専門職アイデンティティの希薄化、(2)教職の魅力低下、(3)教員離職率の増加の課題に注目し、教師の職業アイデンティティとその形成に係る先行研究を実施した。この結果、教師の専門性・資質能力の構成要素を外的に定義して測定する共通指標を前提にする政策と実践のアプローチの有効性は限定的であり、教

師の質保証アプローチとして理論的・実践的に限界があること、そしてその限界が教師の専門職アイデンティティにネガティブに機能することを実証的に示した。

教師の専門職性の諸段階

アカウントビリティ政策の強化は、教師の専門職性の形成/展開にどのようなインパクトを与えたか。Buchanan (2015)による教職の専門性をめぐる歴史的発展段階の研究を応用して作成

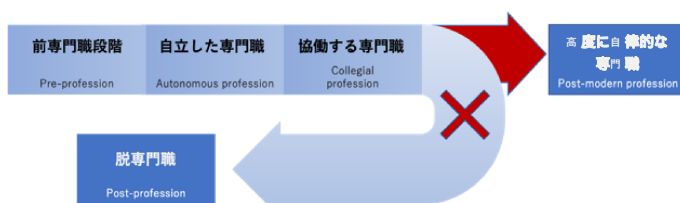


Buchanan, R. (2015). Teacher Identity and Agency in an Era of Accountability. *Teachers and Teaching*, 21(6), 700-714.

教師に求められる資質能力を定義・指標化することで、教師の専門職性を保証・強化できるか？
 の問いについては、先行研究から教職の専門職性がいくつかの段階を経て発展することを示し、
 各段階での教師と教職の様相を明らかにした。

	知識や技能の所在	教師の学びのあり方	学びの検証	
継続的な専門職性開発 CPD	教師は知識や技能の 伝達 を受けて学ぶ (知識や技能は外在的)	教師に 不足するとみなされた知識や技能 を補充・刷新する営み (欠損モデル)	外部指標(スタンダード等)と照らした 外的な 評価/検証(管理型)	資質能力の欠損とその補充/刷新を図り、指標等で管理する管理型質保証
継続的な専門職性に伴う学び CPL	社会や環境との 関わりを介して 最適解を形成・獲得する(真正な学び)	社会環境の状況や課題との関わりから 必要と認められる知識や技能 を修得する個別的な営み	専門職コミュニティや協働を介した対話/省察を重ねる 自律的な 評価/検証(自律型)	変化する多様な複雑なニーズに実践と省察を介した課題解決を図る専門職の自律性に信託する専門職型質保証

管理強化は「脱専門職化」を誘引し、...そして、VUCA社会の到来を前に「管理型質保証」はどこまで可能か？



管理的職能成長(CPD)と専門職の自律性が牽引する職能成長(CPL)とを組み合わせた教師教育・教師の成長モデルは可能か？

1. 前専門職段階 ~ 寺子屋などにみられる「知識や技能」をもつ個人による教育。塾講師などもこれに相当。
2. 自立した専門職段階 ~ 教育実践の行為に関わる専門的知識や技能(eg. PCK)の修得によって専門職性を獲得する段階(免許・資格制度の段階)
3. 協働する専門職段階 ~ 複雑で多様な教育実践上の《要求》に協働して応答する「期待に応える」専門職性の段階(外部評価に応答する段階)
4. 高度に自律的な専門職段階 ~ 複雑で多様な教育実践上の《課題》を協働して克服する自律的な行動主体としての専門職性の段階(自律的責任主体の段階)

この結果、「教師の外部で設定された指標」に応答することで「専門職性の認証」を図るアプローチは、教師の自律的判断を阻害し、「脱専門職化」を加速することが観察された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Wang, L.; Kimura, Y.; Yurita, M.	4. 巻 42
2. 論文標題 One Step Further: Advancing Lesson Study Practice through Collaborative Inquiry School-University Partnership	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Asia Pacific Journal of Education	6. 最初と最後の頁 124-137
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 百合田真樹人	4. 巻 印刷中
2. 論文標題 越境するエビデンス	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本教育経営学会紀要	6. 最初と最後の頁 38-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 百合田真樹人, 香川奈緒美, 深見俊崇	4. 巻 36
2. 論文標題 大学と教育委員会との有機的連携の構築：教員研修・教員意識調査を切り口に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本教育大学協会年報	6. 最初と最後の頁 329-341
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計18件（うち招待講演 11件/うち国際学会 6件）

1. 発表者名 Yurita, M.
2. 発表標題 Teacher Training & Competency Development in the Intelligent Information Era
3. 学会等名 National Education Training Institutes in ASEAN (NETI-A) Forum 2021 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 百合田真樹人
2. 発表標題 教師の資質能力をめぐる政策と実践のレトリックと教師教育の課題
3. 学会等名 日本教師教育学会第31回研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 百合田真樹人
2. 発表標題 教師の資質と役割とをめぐるディスコースの国際動向
3. 学会等名 大塚学校経営研究会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 百合田真樹人
2. 発表標題 教師教育政策 / 研究のパラダイムシフト：資質能力の保証から組織化された専門職性の向上と活用へ
3. 学会等名 自民党文部科学部会「教師の確保・資質向上・支援小委員会」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 百合田真樹人
2. 発表標題 「校内研修」展開とその方向性：教員免許更新制の発展的解消とその後の研修と質保証
3. 学会等名 全国研修担当者セミナー・教職大学院セミナー（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yurita, M.
2. 発表標題 What Need to Be Done, So We Can Do What We Do Best? -- Emerging Demands in Professional Community in an Era of Deprofessionalisation
3. 学会等名 IMSSB (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yurita, M.
2. 発表標題 Panel Commentary: Teacher Training & Competency Development in the Intelligent Information Era
3. 学会等名 National Education Training Institutes in ASEAN (NETI-A) Forum (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 百合田真樹人
2. 発表標題 「令和の日本型教育」を担う教師を支える学校管理職の在り方をめぐる検討の視点：個別的管理的な資質能力アプローチを超えて
3. 学会等名 中央教育審議会「令和の日本型学校教育」を担う教師の在り方特別部会(第2回)・初等中等教育分科会教員養成部会(第124回)合同会議 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 百合田真樹人, 香川奈緒美
2. 発表標題 多元的学力感をめぐる国際的調査研究の方向性
3. 学会等名 日本教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 香川奈緒美, 百合田真樹人
2. 発表標題 多元的学力感を反映する教育効果の調査測定方法の検討と試案
3. 学会等名 日本教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 百合田真樹人
2. 発表標題 教師教育研究の政治性と方法論的課題
3. 学会等名 日本教師教育学会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 百合田真樹人
2. 発表標題 教師教育機関の自律性とアカウンタビリティ：自律性の保証装置としてのアカウンタビリティ
3. 学会等名 日本教師教育学会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 百合田真樹人, 香川奈緒美
2. 発表標題 教師教育研究の問いについて：国際調査研究のディスコースからの検討
3. 学会等名 日本教師教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 YURITA, Makito
2. 発表標題 Roles and Challenges of Moral Education in Japan: Teaching in the VUCA World
3. 学会等名 EDUCA (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 百合田真樹人・香川奈緒美
2. 発表標題 学校管理職の意識と責任：教員研修における試行調査から
3. 学会等名 日本教師教育学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 香川奈緒美・百合田真樹人
2. 発表標題 教員養成・教師教育における教員養成・教師教育におけるアクティブ・ラーニングの実践課題
3. 学会等名 日本教師教育学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 M. Yurita, I. Kagami, R. Hiranaka
2. 発表標題 Stimulating New Model of Learning for the 21st Century: Building Collaboration for Better Teaching and Learning
3. 学会等名 EDUCA (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 M. Yurita
2. 発表標題 Better Teachers, Better Education?--Teacher as a Key Factor
3. 学会等名 Historias de Exito: El porque de la extraordinaria performance educativa en los pases que lideran todos los rankings (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 百合田真樹人	4. 発行年 2022年
2. 出版社 独立行政法人教職員支援機構	5. 総ページ数 9
3. 書名 ウェルビーイングの生成と課題	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>学校教育の組織における社会的・文化的に形成された性に基づく格差とその課題 https://www.nits.go.jp/research/result/002/files/index_20190123_001.pdf</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	香川 奈緒美 (Kagawa Naomi) (80622399)	島根大学・学術研究院教育学系・准教授 (15201)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------